

(19) 日本国特許庁(JP)

(12) 特 許 公 報(B2)

(11) 特許番号

特許第4898329号
(P4898329)

(45) 発行日 平成24年3月14日(2012.3.14)

(24) 登録日 平成24年1月6日(2012.1.6)

(51) Int. Cl. F 1
B 6 5 D 83/76 (2006.01) B 6 5 D 83/00 K
B 0 5 B 11/00 (2006.01) B 0 5 B 11/00 1 O 1 E

請求項の数 1 (全 10 頁)

<p>(21) 出願番号 特願2006-193584 (P2006-193584) (22) 出願日 平成18年7月14日(2006.7.14) (65) 公開番号 特開2008-18989 (P2008-18989A) (43) 公開日 平成20年1月31日(2008.1.31) 審査請求日 平成21年7月7日(2009.7.7)</p>	<p>(73) 特許権者 390024372 竹本容器株式会社 東京都台東区西浅草1丁目5番15号 (74) 代理人 100067091 弁理士 大橋 弘 (72) 発明者 藤森 宏 東京都台東区西浅草1丁目5番15号 竹 本容器株式会社内 審査官 山村 秀政</p>
---	--

最終頁に続く

(54) 【発明の名称】 ポンプ付容器に用いられるポンプホルダー

(57) 【特許請求の範囲】

【請求項1】

ポンプ又はポンプキャップに対する取付部を上部に形成すると共に、中間部に注入口を形成し、下部に容器本体の口縁に上方から係合するポンプ保持ストッパーを形成し、このポンプ保持ストッパーの下部に、容器本体の口部内において、ポンプを一定量以上引き上げるにより外れるのを阻止する抜け止めストッパーを形成して成るポンプ付容器に用いられる全体が柔軟性を有する樹脂で一体成形されたポンプホルダーであって、前記ポンプホルダーは、前記ポンプ保持ストッパーの上部において全体がくの字形に屈曲していると共に、前記注入口はこの屈曲した部分より上位部側に位置するように形成されていること、を特徴とするポンプ付容器に用いられるポンプホルダー。

【発明の詳細な説明】

【技術分野】

【0001】

本発明は、シャンプー、洗剤等の詰め替え容器から、ポンプ付容器内に内容物を注入する際に、容器内から引き上げたポンプを容器本体の口上に保持して詰め替え作業時におけるポンプ及びキャップ等に付着した内容物により辺りを汚したり、あるいはポンプシリンダー等に埃やゴミ類が付着して不衛生となったりしないようにポンプを容器本体の口のところに保持しておくためのポンプホルダーに関する。

【背景技術】

【0002】

シャンプー、洗剤等の場合、ポンプ容器内の内容物を使い切ると、詰め替え容器内に入った同一種のもを詰め替えて使用する使用例が普及している。

この種用途に用いられる詰め替え容器には、パウチ又は簡易な細口ボトルが用いられていて、詰め替えを行うときは、パウチの注入口をカットしたり、ボトルのキャップをあげ、その上でポンプを取り外した容器本体の口から詰め替え液を注入する形態となっている。

このようにして詰め替えを行う場合には、容器本体から一旦ポンプを引き上げて脇に置く必要があるため、ポンプのシリンダーや吸上げパイプに付着した内容物が手や衣類、あるいは辺りに付着して汚れるという欠点がある。

また、シャンプーや洗剤についてはそれ程問題とならないが、除菌液等の場合には、詰め替え時に外して置いたポンプのシリンダーや吸上げパイプに雑菌が付着する心配がある。

【 0 0 0 3 】

このような観点から、詰め替え時にポンプを引き上げて容器本体の口のところに保持したまま詰め替えを行うことができるようにした液体噴出器の提案がある（特開 2 0 0 4 - 2 9 2 0 3 4 号公報）。

この公知例の内容は、「容器と、下端に吸上げパイプを垂設したポンプと、容器口部に取着されたポンプ受け体とからなるディスペンサー付き容器であって、ポンプ受け体は、容器口部に取着される取付筒と保持筒とを具備しており、保持筒の下端に、先端を吸上げパイプの嵌挿部とした保持杆が連設され、保持杆の間が流通孔となっていることを特徴とするディスペンサー付き容器。」（請求項 1）及び「容器と、下端に吸上げパイプを垂設したポンプと、容器口部に取着されたポンプ受け体とからなるディスペンサー付き容器であって、ポンプ受け体は、取付筒と、該取付筒に連杆を介して連設された保持部とを具備しており、保持部は、連杆に連設された外筒とポンプを保持する嵌挿筒とを具備し、前記連杆の間が流通孔となっていることを特徴とするディスペンサー付き容器。」（請求項 2）である。

【 0 0 0 4 】

しかし、上記公知例の場合、ポンプ受け体を容器口部に取着し、この受け体の保持筒にポンプ側の吸上げパイプを嵌挿しているだけのため、ポンプを引き上げすぎると外れたりすることがあると共に、引き上げたときにポンプのシリンダーや吸上げパイプは露出しているため、ここで手が汚れたり、雑菌が付着したりするという欠点がある。

また、保持筒を経由して詰め替え液が流入する構造のため、流入量が少なく、詰め替えに時間がかかると共に、勢いが良いと溢れ出ることがある。

【 0 0 0 5 】

次に、同一の目的を持った公知例として、特開 2 0 0 4 - 2 9 8 8 0 4 号公報に掲載されているものがある。

この公知例は、「容器体 2 内部へシリンダ 9 を垂下させた状態でその口頸部 7 を閉塞して容器体にポンプ 3 を着脱可能に装着するとともに、シリンダ 9 下端より容器体 2 内底部へ液吸い上げ用のパイプ 1 0 を垂設し、且つ、上記ポンプの作動により上記容器体内液体を噴出する如く構成した液体噴出器であって、上記口頸部に上端部を固定させた注入窓 2 2 付きの大径部 2 3 を上記シリンダと隙間をあけて垂下するとともに、上記容器体内の downward 面 f に当接して抜け出しを防止する係止片 2 4 を上記大径部より斜め上方へ突設し、且つ、上記パイプ外周に摺動可能に密嵌させた小径部 2 5 を上記大径部下方へ延設した筒部材 4 を設け、上記ポンプを上記口頸部からの液注入が可能な位置まで引き上げた際に上記小径部による上記ポンプの起立状態維持が可能に構成したことを特徴とする」ものである。

【 0 0 0 6 】

しかし、この公知例の場合も、ポンプを引き上げすぎると外れたりすることがあると共に、詰め替え液の注入シリンダー 9 と筒部材 4 との間において液体の流入スペースが小さく、詰め替えに時間がかかると共に、ポンプを引き上げたときにシリンダーが露出して（

10

20

30

40

50

図3参照)、手を汚したり、雑菌が付着する。

また、ポンプの引き上げ量が定まっていないことから、使い勝手が悪い。

【発明の開示】

【発明が解決しようとする課題】

【0007】

本発明は、以上の如き欠点を解消した詰め替え時にポンプを保持するポンプホルダーを提供するのが目的である。

【課題を解決するための手段】

【0008】

上記目的を達成するため、請求項1に記載の発明においては、ポンプ付容器に用いられるポンプホルダーにおいて、ポンプ又はポンプキャップに対する取付部を上部に形成すると共に、中間部に注入口を形成し、下部に容器本体の口縁に上方から係合するポンプ保持ストッパーを形成し、このポンプ保持ストッパーの下部に、容器本体の口部内において、ポンプを一定量以上引き上げるにより外れるのを阻止する抜け止めストッパーを形成して成るポンプ付容器に用いられる全体が柔軟性を有する樹脂で一体成形されたポンプホルダーであって、前記ポンプホルダーは、前記ポンプ保持ストッパーの上部において全体がくの字形に屈曲していると共に、前記注入口はこの屈曲した部分より上位部側に位置するように形成されていること、を特徴とするものである。

【0009】

[作用]

ポンプ又はポンプキャップに取り付けられたポンプホルダーは、詰め替えのためにポンプを容器本体から一定量引き上げると、抜け止めストッパーが容器本体の口部内に係合することによって、それ以上のポンプの引き上げはできない。このとき、ポンプ保持ストッパーが容器本体の口縁に上方から係合するため、ポンプをそのまま容器本体の口上に保持させておくことができる。この結果、前記注入口に詰め替え容器の注入口を臨ませて詰め替え液を容器本体内に注入することができる。注入を終えてポンプを容器本体内に押し込むようにすると、ポンプ保持ストッパー及びホルダー自体がその弾性作用で変形することから、たやすくポンプを再度容器本体内に組み入れることができる。

【発明の効果】

【0010】

本発明に係るポンプホルダーは以上の如き構成から成るため、次の効果を奏する。

1. 詰め替えのためにポンプを引き上げると、抜け止めストッパーが容器本体の口部に当り、それ以上の引き上げを阻止するので、ポンプが不用意に抜け出たりしないと共に、ポンプ保持ストッパーが容器本体の口部の上に露出するので、ここでポンプを手放すと、ポンプ保持ストッパーが口縁に上から係合する。この結果、注入口から詰め替え液を簡単に注入することができる。
2. 万一、注入中に容器本体が倒れてもポンプホルダーは抜け止めストッパーとポンプ保持ストッパーにより口部にしっかりと止められているため、外れたりする心配がない。
3. ポンプホルダーは、弾性樹脂で一体成形されているため、ストッパーの変形に併せてストッパー自体が変形してスムーズにポンプの出し入れを行うことができる。
4. ホルダー自体を中空形成法により成形するようにすると、金型コストを抑えることができる。

【実施例】

【0011】

上記した本発明に係るポンプホルダーの実施例を図1乃至図4に基づいて詳細に説明する。図1はポンプホルダーの全体を示す斜視図、図2はポンプホルダーを装着したポンプ容器のポンプ側上半の説明図、図3はポンプ側を容器本体の口部から引き上げた状態の説明図、図4は詰め替え液を容器本体内に注入している状態の説明図である。

【0012】

ポンプホルダー 1 は、図 1 に示すように、上端部にパッキン兼用のリング 2 を形成し、このリング 2 の内縁から支持片 3 を等間隔で垂下させ、この支持片 3 の下端を環体 5 で連結し、この環体 5 の下縁から水平方向に約 90° の広がり角で引き上げ阻止ストッパー 6 を形成すると共に、前記支持片 3 の略中間に、ポンプ保持ストッパー 7 を突出させた構造であって、このポンプ保持ストッパー 7 は、ポンプホルダー 1 を一定の力で押し込むと口縁に当って変形し、口部内への挿入を許容し、反対に引き上げてポンプから手を離すと、元の形状に戻る。4 は、支持片 3 間に開口している注入口である。

なお、本実施例 1 において、ポンプ保持ストッパー 7 は、上辺に R をつけた直角三角形形状を呈しているが、上下辺にそれぞれ傾斜又は R をつけた三角形形状、あるいは半円形状としても良いし、特にこの形状は、ストッパーとしての機能を有し、力をかけたときに口部内に入り込みがスムーズな形状ならば、どのような形状であっても良い。

【 0 0 1 3 】

上記ポンプホルダー 1 は、図 2 に示すように、容器本体 10 の口部 11 の上縁 12 とポンプキャップ 13 間にリング 2 を挟み込むようにしてポンプ 14 側に取り付けられる。ポンプ 14 のシリンダー 15 は、このポンプホルダー 1 の中央を通過して下方に向き、このシリンダー 15 には吸上げパイプ 16 が容器本体 10 内の底部近くまで垂下されている。このようにしてポンプ 14 に取り付けられたポンプホルダー 1 を最初に容器本体 10 の口部 11 内に挿入するとき、抜け止めストッパー 6、ポンプ保持ストッパー 7 及びホルダー自体が変形するため、ポンプ 14 及びポンプホルダー 1 を容器本体 10 内に簡単に押し込むことができる。

ポンプ 14 は、ポンプヘッド 17 を駆動することにより、容器本体 10 内の液体を吸い上げてノズル 18 から噴出させることができる。

【 0 0 1 4 】

図 3 は、ポンプキャップ 13 を弛めてこのポンプキャップ 13 を持ち、ポンプ 14 を引き上げた状態、図 4 は、詰め替えを行っている状態を示すもので、この引き上げ時に、ポンプホルダー 1 は、ポンプ 14 と一緒に引き上げられ、抜け止めストッパー 6 が容器本体 10 の口部 11 の肩に内側から当ることにより引き上げが阻止される。

この引き上げ時に、ポンプ保持ストッパー 7 及びポンプホルダー 1 は、その弾性により変形するため、引き上げの障害とはならず、ポンプ保持ストッパー 7 は口部 11 から外に出て元の三角形形状に復元する。この結果、ポンプ 14 から手を離すと、ポンプ保持ストッパー 7 が容器本体 10 の口部 11 の上縁 12 に当り、ポンプ 14 は容器本体 10 の口部 11 上に保持される。

【 0 0 1 5 】

このようにしてポンプホルダー 1 の作用でポンプ 14 を引き上げたまま、図 4 に示すように、支持片 3 間の注入口 4 のところに注入口 21 をカットした詰め替えパウチ 20 内から詰め替え液を容器本体 10 内に注入すると、詰め替え液は、ポンプホルダー 1 の中央を通過して容器本体 10 内に流下する。

詰め替えが終り、ポンプ 14 を口部 11 内に押し込むと、ポンプ保持ストッパー 7 及びポンプホルダー 1 自体が変形し、ポンプホルダー 1 は元通り口部 11 内に入るため、支障なくポンプキャップ 13 を容器本体 10 の口部 11 にねじ込んでポンプ 14 を容器本体 10 に取り付けることができる。

【 0 0 1 6 】

図 5 において、支持片 3 は、ポンプ保持ストッパー 7 の上のところを少し傾けることにより、全体をくの字形に屈曲させ、注入口 4 の位置をこの屈曲させた外側において大きく開口させて図 8 に示すように詰め替え時に注入しやすいように工夫したものである。

図 6 はポンプキャップ 13 を容器本体 10 に締め付けた時のポンプホルダー 1 の状態を示すもので、この時、ポンプホルダー 1 の下部は、シリンダー 15 及び吸上げパイプ 16 の邪魔にならない程度にくの字形に傾いている。

【 0 0 1 7 】

図 7 はポンプ 14 を引き上げてポンプ保持ストッパー 7 を容器本体 10 の口縁 12 に引

10

20

30

40

50

っ掛けた状態、図 8 は詰め替え容器 20 から詰め替え液を注入している状態を示すものである。

なお、ポンプホルダー 1 の傾け角は約 20° であるが、あまり傾けすぎるとポンプ 14 を容器本体 10 にセットしたときにホルダーの傾きが大きくなりすぎ、傾き角が小さいと注入口 4 の開きが小さくなるので、実用的には 15° ~ 25° 位の範囲が有効である。

なお、図 5 乃至図 8 において、図 1 乃至図 4 と同一の符号は、同一物及び同一構造及び同一の作用を奏するもののため、重複を避けるためにその説明は省略する。

【0018】

図 9 には、ポンプホルダー 1 をポンプ 14 のシリンダー 15 の先端（下端）に取り付けるようにしたもので、図 1 との違いは、リング 2 に相当する構成が無いことと、ポンプホルダー 1 は、天板 1a の中心に取付孔 1b を設けた円筒体の側面に略 180° の広がり注入口 4 を形成したもので、このポンプホルダー 1 は、図 10 に示すように、吸上げパイプ 16 を取り付けしたシリンダー 15 の先端固定部 15a に前記取付孔 1b を外嵌し、図 9 に示す固定部材 15b をポンプホルダー 1 の内方から先端固定部 15a に嵌合させることにより、シリンダー 15 の下に取り付けられる。

10

【0019】

このポンプホルダー 1 によると、図 11 に示すように、ポンプ 14 を大きく引き上げて詰め替えを行うことができると共に、注入口 4 が大きいと、詰め替えに便利である。

図 9 乃至図 11 において、図 1 乃至図 4 と同一の符号は、同一物及び同一構造及び作用を奏するもののため、重複を避けるためにその説明は省略する。

20

【0020】

図 12 は、ポンプホルダー 1 をポンプ 14 のシリンダー 15 の先端固定部 15a に直接嵌合して取り付けられることができるように、ポンプホルダー 1 の天板 1a の中央に上向きにシリンダー 15 の先端固定部 15a に嵌合させるための嵌合口 1c を形成し、支持片 3 を 180° 間隔で 2 枚板とすることにより、注入口 4 を左右に大きく開口させた形状である。

【0021】

ポンプホルダー 1 は、図 13 に示すように、シリンダー 15 の先端固定部 15a に嵌合口 1c を嵌合して取り付けられるもので、図 14 に示すように、ポンプ 14 を引き上げると抜け止めストッパー 6 が容器本体 10 の口部 11 内に係合し、ポンプ保持ストッパー 7 が口縁 12 上に係合することにより注入口 4 が左右に大きく開口するため、左右いずれの方向からでも詰め替えを行うことができ便利である。

30

図 12 乃至図 14 において、図 1 乃至図 4 と同一の符号は、同一物及び同一構造及び作用を奏するもののため、重複を避けるためにその説明は省略する。

なお、実施例のポンプホルダー 1 の成形用樹脂には、ポリプロピレン又はポリエチレンが用いられているが、これらに限定されるものではない。

【図面の簡単な説明】

【0022】

【図 1】本発明に係るポンプホルダーの説明図

【図 2】ポンプホルダーをポンプと一緒に容器本体内に組み付けた状態の説明図

40

【図 3】ポンプを引き上げた時にポンプがホルダーにより保持されている状態の説明図

【図 4】詰め替え液を注入している状態の説明図

【図 5】本発明に係るポンプホルダーの説明図

【図 6】ポンプホルダーをポンプと一緒に容器本体内に組み付けた状態の説明図

【図 7】ポンプを引き上げた時にポンプがホルダーにより保持されている状態の説明図

【図 8】詰め替え液を注入している状態の説明図

【図 9】他のポンプホルダーの説明図

【図 10】ポンプホルダーをポンプと一緒に容器本体内に組み付けた状態の説明図

【図 11】ポンプを引き上げた時にポンプがホルダーにより保持されている状態の説明図

【図 12】(A) はポンプホルダーの正面図、(B) (C) は平面図、(D) は下面図

50

【図13】ポンプホルダーをポンプと一緒に容器本体内に組みつけた状態の説明図

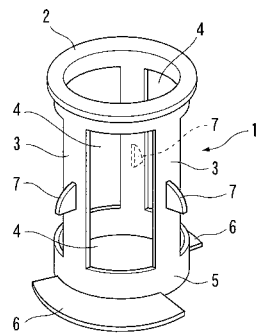
【図14】ポンプを引き上げた時にポンプがホルダーにより保持されている状態の説明図

【符号の説明】

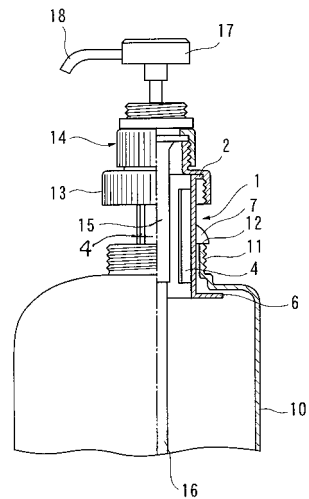
【0023】

- 1 ポンプホルダー
- 2 リング
- 3 支持片
- 4 注入口
- 5 環体
- 6 抜け止めストッパー
- 7 ポンプ保持ストッパー
- 10 容器本体
- 11 口部

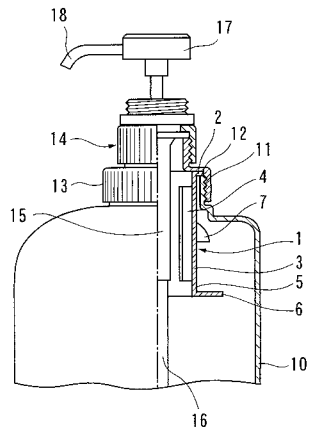
【図1】



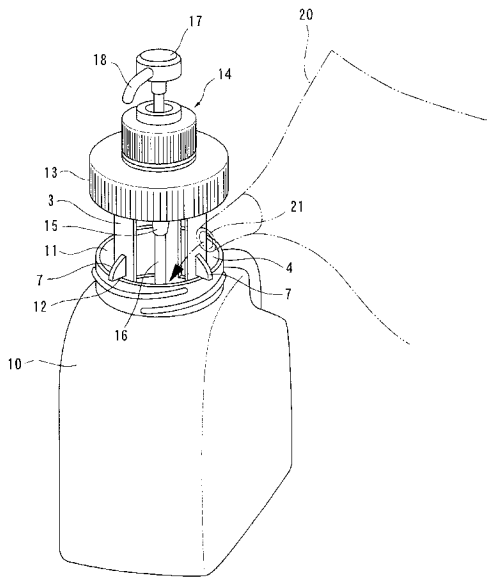
【図3】



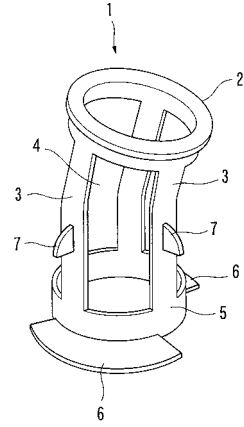
【図2】



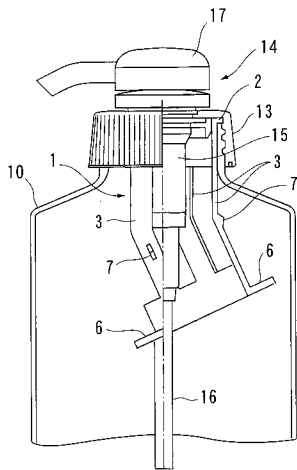
【図4】



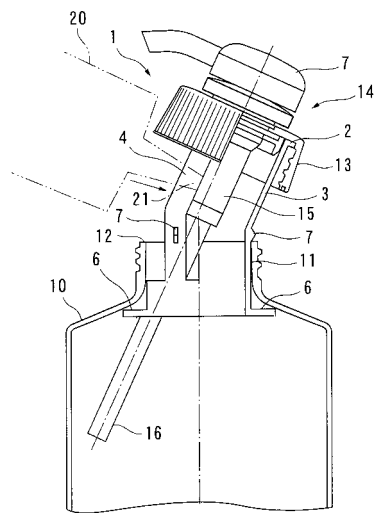
【図5】



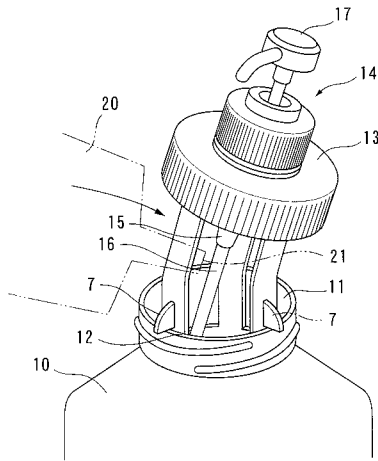
【図6】



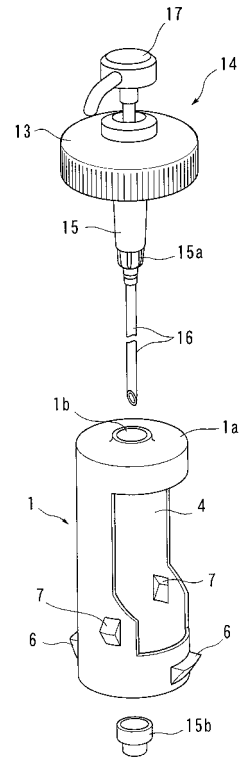
【図7】



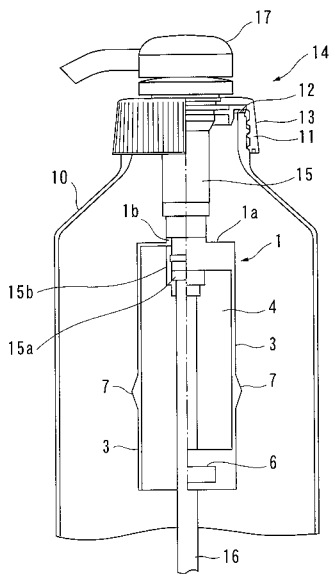
【図 8】



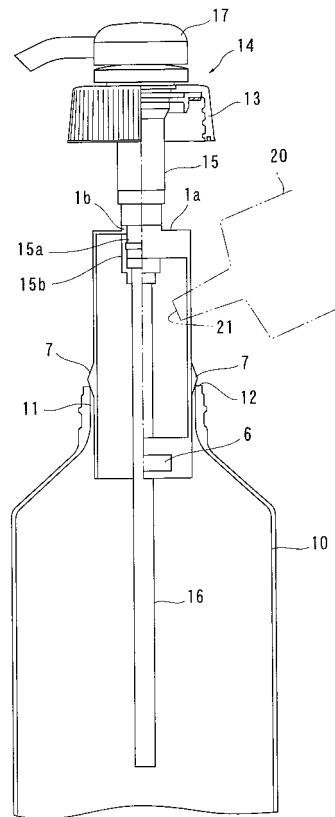
【図 9】



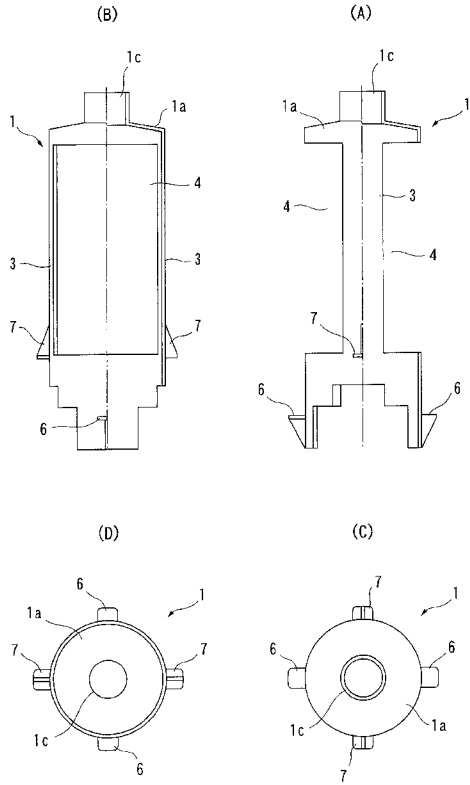
【図 10】



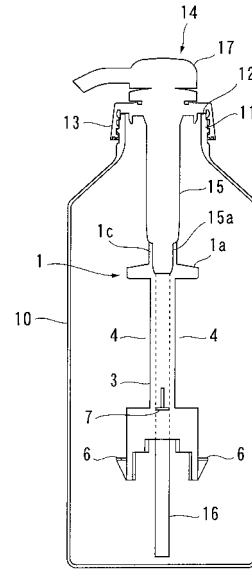
【図 11】



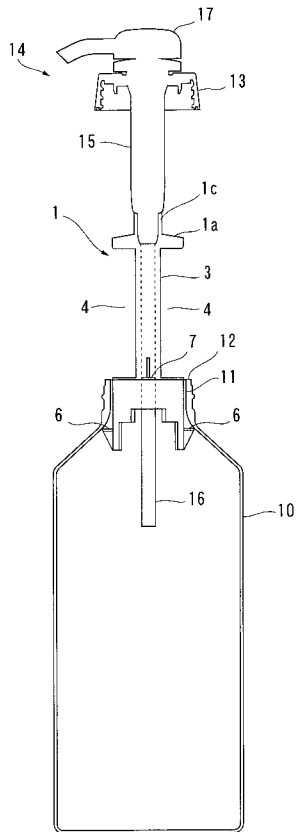
【 図 1 2 】



【 図 1 3 】



【 図 1 4 】



フロントページの続き

- (56)参考文献 特開2005-047520(JP,A)
特開2004-075128(JP,A)
特開平08-104321(JP,A)
特開平11-079223(JP,A)
実開平07-000547(JP,U)
特開2004-298804(JP,A)

(58)調査した分野(Int.Cl., DB名)

B65D 83/76
B05B 11/00